

魚つかみ捕り楽しい

都城

子どもら河川環境学ぶ

「第2回淀川子どもサミット」が19日、都城市のせせらぎ水路公園であった。市内外の親子ら約460人が参加し、さまざまな催しを通じて川の環境保全や川遊びの楽しさについて学んだ。

同市民有志でつくる都城大淀川サミット(森下信秀会長)が昨年に続いて開催した。人気が高かったのはニシマスとウナギのつかみ捕りで、水着姿の子どもらは「又ルルルしてる」「捕まえた」と大はしゃぎ。保護者も写真

を撮ったり、応援したりするなどして楽しんだ。

水辺のこみを紹介するコーナーでは、都城土木事務所が「川には自然の物以外にも、ペットボトルや洗剤の容器などが流れていることがある」と説明。子どもたちは熱心に耳を傾け、「こみを捨てないよに気を付けて」と求められると大きくうなずいていた。また、都城、小林、宮

ニシマスとウナギのつかみ捕りを楽しむ子どもたち



崎市の水道水を飲み比べるコーナーや1時間180分の雨量を体験できる装置などもあった。

森下会長は「遊びを主体に

あることで興味を持ってもらえる。何か一つでも川の環境について覚えて帰ってくるのがうれしい」と話していた。

(都城支社・赤塚 監)